

## 共育・共成・共存のまちへ

### 市民グループ ふくみみ 代表 橋 貴範

在住外国人が、特に在住歴の少ない方が、どんな日本生活をしたいか、わかりますか？市民グループふくみみは、所在地域の外国人増加率がここ数年近隣地域より高く、地域内に日本語教室、支援団体が無いことに気づき、日本語教師の私が代表となって、令和元年5月に立ち上げた活動団体です。

他地域で見聞きした在住外国人の悩みや不安は、我々の地域においても他人事ではないと感じ、いまのうちに何かできないか？と思いたったことがきっかけでした。活動の目的は、在住外国人も地域の日本人もより充実した生活を送るための共成のため、3つの“わ”をテーマに掲げています。

1. 日本語学習“話”の支援
2. 居住地域で“和”の体験
3. 地域や日本人との“輪”を構築日本語を学ぶだけでなく、日本語「で」学び、地域を教材にし、日常を題材にしていくことが、外国人と日本人の共育だと考えています。

日本語学習支援の“話”は、日本語教室を開き、在住外国人に生活日本語、会話力、試験対策、仕事など、学習者の必要な日本語学習を日本語指導経験者が主軸に支援します。一見、他地域にもある普通の教室ですが、当会の教室は1か所固定開催ではありません。当会所在地域には、現在約1200名の在住外国人が生活していますが、特に4つの学区に集中しています。当会は、参加希望の在住外国人に、曜日・時間・距離による学習機会の損失を防ぐため、この4学区の公民館等を利用し、移動型教室をしています。特に就学生は学区が違うだけで遠く通いにいと云います。当会は「会いに行く日本語教室」を目指しています。国籍・年齢・性別等、誰でも参加可能です。日本語学習は日本生活で1番の壁なので、特に重点を置いて活動します。また、日本語支援は必ずしも外国人だけではありません。日本人にも行います。外国人の日本語(会話)力を上げると同時に、日本人にも「やさしい日本語」や外国人との会話術を培ってもらうことで、コミュニケーションが格段に易しくなります。日本人が言語レベルを調整し、外国人に優しく接することで、理解力が格段に上がります。そのため易しい・優しい日本語の講座も開催しています。外国人と接することで改めて日本語の難しさ、素晴らしさを感じてもらっています。地域特有の“和”を知る。地域には何らかの歴史や文化・習慣が多数存在します。これらを残し、伝える市民活動や、場所・記録もたくさんあります。縁あってこの地域で生活するのですから、居住地域から歴史や文化、習慣や生活様式を知ってもらい、地域の和に触れ、地域で和を体験してもらっています。まちづくり団体が作成した地域マップを散策したり、教室活動の中に地域題材を取り入れたりしながら地域を知ってもらっています。最近一番喜んでもらった1つが「スーパー銭湯にいこう！」でした。湯船に浸かる習慣のない国や地域の方が多いため、日本の「銭湯」にとても

興味があったようです。地域には意外と多くの「〇〇跡」があります。日本の歴史に興味を持つ外国人は多いので、まちの〇〇を探索する「ローカルツーリズム」も行っています。「金持神社」に行ったときは、みんなお金持ちになりたいと拜んでいました。お金持ち願望は世界共通のようです。この他にも色々ありますが、日本人にとってごく普通のこと外国人にとって新鮮であり、嬉しく楽しいことなのだ実感します。そして何より重要なのが地域やひととのつながりの“輪”。今は世情的に減っていますが、私たちの地域では、年間に大小あわせて50以上の行事やイベントが催されています。これら地域行事やイベントに在住外国人と参加し、現地で関係者や参加日本人との交流し、可能であれば手伝いもさせてもらう。催しを参加・利用するだけでなく、もう1歩踏み込むことで、地域交流を促進し、ひとの繋がりや共存をくべく引率しています。以前参加したイベントで、母国の屋台を見つけた方が出店者と話しが盛り上がり、関係者とも交流でき、徐々に屋台周りに人が集まり、にぎわいが誕生する瞬間を垣間見れました。来年こそは、在住者と一にイベントを企画、実施したいと思います。最後に、地域で生活するなかで、突然近所に外国人が居住したり、集団場面に遭遇したりすると、日本人は戸惑ったりするでしょう。しかし、それ以上に外国人は日常的に戸惑っています。これは単にお互いがお互いを「知らない」だけなのです。外国人も人間です。知ればわかるのです。そういう機会や関わるひと（日本人）が近くにないだけなのです。私たちは、これらの活動をしたいのではなく、地域住民ひとりひとりが自然に行える地域の日常を見たいのです。日本人・外国人と区別するのではなく、同じ地域住民として、地域全体が交流の場になることを願っています。